

海・川合同部会WG/現地見学のご案内

1. 開催日時、場所

- 1) 開催日時：令和4年11月22日（火）10時～17時
- 2) 集合場所：愛知環状鉄道 新豊田駅 西口ロータリー
- 3) 解散場所：同上

2. 目的（目標）

【R4海部会活動目標（一部抜粋）】

●土砂の問題

「河川の治水事業や干潟造成事業など土砂に関わる具体的な事業を通して土砂問題の認識を深めるとともに、他部会との情報共有および意見交換を行う。」

【R4川部会活動目標（一部抜粋）】

●本川モデル

「流域における土砂の役割を再認識するとともに、山・川・海の立場に共通する望ましい条件を抽出し、関係する国や自治体に、その条件を共有する。」

「鵜の首地区水位低下対策事業（砂の掘削）、干潟造成箇所（掘削で生じた砂の造成）について、海部会と合同で状況を把握し、双方の利益に関する意見交換を行う。また、より好ましい事業に向けて、関係者への働きかけを行う。」

3. 内容

①鵜の首の掘削箇所見学【解説：豊橋河川事務所】

②ヨシ原再生箇所見学【解説：豊橋河川事務所】

③干潟造成箇所見学および海鳥の解説

【解説：愛知県農業水産局水産課漁港・漁場グループ 谷川様】

【解説：西三河野鳥の会 高橋伸夫様】

④WG・意見交換【会場：西尾市文化会館の301会議室】

※昼食は「道の駅にしお岡の山」にて各自調達してください。

※移動はマイクロバス1台（20名）+車になります。

※家用車等で参加したい場合はご連絡ください。

令和4年度 海・川合同部会 タイムスケジュール

令和4年11月22日(火)

時刻	場所	詳細
10:00集合 10:05出発	愛知環状鉄道 新豊田駅 西口 ロータリー	集合・点呼
↓		移動(15分)
10:20到着 10:35出発	鵜の首の掘削箇所見学 (野見山展望台)	解説者: 豊橋河川事務所 ※バスへの乗降含めた時間(約15分)
↓		移動(約60分)
11:35到着 11:50出発	ヨシ原再生箇所見学 (矢作川西尾緑地)	解説者: 豊橋河川事務所 ※バスへの乗降含めた時間(約15分)
↓		移動(約15分)
12:05到着 12:30出発	道の駅にしお岡ノ山	お昼休憩(約25分)
↓		移動+お昼休憩(約30分)
13:00到着 14:00出発	干潟造成箇所見学 海鳥解説	解説者: 愛知県農業水産局水産課 谷川様 解説者: 西三河野鳥の会 高橋伸夫様 ※バスへの乗降含めた時間(約60分)
↓		移動(約20分)
14:20開始 15:20終了	西尾市文化会館の301会議室	海・川合同での意見交換(約60分)
↓		移動(約100分)
17:00頃解散	愛知環状鉄道新豊田駅 西口 ロータリー	

4. ご留意事項

- 1) 新型コロナウイルスの感染者における実施判断について
世の中の情勢をふまえ、現地見学を中止し、会議室での解説および意見交換のみとする可能性がありますことあらかじめご了承下さい。
- 2) 少雨決行ですが、荒天の場合は、延期または中止とする可能性があります。
- 3) マイクロバスの座席数の都合から、定員を超える場合は先着順とします。
- 4) 現地参加における新型コロナウイルス拡大防止対策について
以下、ご協力ください。
 - ・バスの乗降時に手のアルコール消毒を行います。
 - ・各自マスクの持参・着用をお願いいたします。
 - ・バス内での大声での会話はお控えください。
 - ・昼食時は人との間隔をあけてお召し上がりください。
- 5) 当日は歩きやすい服装(必要に応じて雨具)でご参加ください。



図 見学予定箇所

洪水対策 矢作川「鵜の首」の掘削砂



鵜の首では浚渫船に重機を乗せて川底の砂を掘削。昨年度は11月～3月中旬に行われていた

三河湾 アサリ育む 干潟を造成

豊田市街地を流れる矢作川の「鵜の首」で掘削された川底の砂が三河湾へ運ばれ、アサリを育む干潟の造成に有効活用されている。国土交通省と愛知県が連携して令和2年度から始めた取り組みだ。【地域記者 有我都・新見克也】

家庭料理に欠かせない味噌。この地には「八丁味噌」と呼ばれる豆味噌があります。大豆と塩、水というシンプルな

味噌カツ

がれ

ム津宏子

に水を少しずつ加えて練り、好みの滑らかさにします。キャベツは細かい千切りで水に放してパリッと。豚肉に塩胡椒をして、小麦粉、卵液、パン粉の

「鵜の首」開削は 豊田都心の悲願

鵜の首は矢作川の流れる岩盤の山にあたって蛇行し川幅が狭くなっている狭窄部。大洪水時にはここがボトルネックとなっており、上流に位置する豊田都心部で水位上昇・氾濫の危険がある。これを開削して広くする治水対策工事は豊田都心にとって長年の悲願とされてきたが、治水対策工事は下流から順に進めてくるルールがあるためなかなか事業化されなかった。国土交通省が鵜の首の治水



対策に着手したのは令和2年度、局地的な集中豪雨による河川の氾濫が全国で激甚化・頻発化しており、長野県の千曲川で狭窄部が原因の氾濫が起きたこともあって着手が早まった。鵜の首の治水対策工事は二本立てで行われる。まず「川底の開削」から始めており、今後、岩盤の山を削って川幅を約2倍(100m→200m)に広げる計画だ。売上には10年ほどかかるという。



鵜の首の掘削工事では、投棄タイヤ等のゴミも驚くほどたくさん引き上げられた

掘削工事は冬の低水期に行われ、令和3年度は11月～3月中旬に行われていた。ICT技術で川底の高い部分(浅い部分)を探りながら浚渫船に載せた重機で掘削。10トン3600台分の砂を三河湾近くの仮置き場へ運搬した。今夏、これを愛知県が矢作川河口沖まで運ぶ。

粒の大きな中流砂が好適

三河湾はアサリの水揚げ全国一位を誇るが、2019年の漁獲量は10年前に比べ2割程度(6800トン)にまで激減している。その原因は川からの栄養分不足によるプランクトン(アサリの餌)減少や、海底に溜まった硫酸の海水が風で沿岸に押し寄せ、アサリの生育を阻害している。愛知県は流域下水道の処理を緩める(栄養分を増やす)、試験運転や干潟の造成などの対策を進めており、干潟の造成面積は今後も増やしていく考えだ。もともと矢作川は砂の川として有名だが、ダム群によって上流から流れてくる砂が減り、その結果として三河湾の干潟が痩せてしまった。今回、砂を運搬して干潟を造成しているのはその穴埋めだが、そうした理屈は抜きで、豊田都心の治水対策が三河湾の生きものを育む干潟の復活につながるのをおもしろい。山々川々海を一体のものとしてみる流域意識が広がるきっかけになってほしい。

へ運んで干潟を造成する予定だ。令和2年度は掘削砂では既に1・78ヘクタールの干潟が造成され、「とても良い砂」と漁業者に好評だ。中流域で掘削した砂は三河湾の砂よりも粒が大きくて不揃いなので隙間が多くなり、アサリが潜り込みやすいという。また、その隙間が干潟の水質浄化機能をより高めるとも。愛知県の担当者は「もともと三河湾の干潟は矢作川が運んでくる砂がもたらした財産。鵜の首で掘削した砂は最適な干潟の造成材になりま